



集団的自衛権は 他人のけんか買うこと

元自衛官 平和を説く

「集団的自衛権は他人のけんかを買うこと。逆恨みされますよ」。神戸市の街頭での泥憲和さん(左)＝兵庫県姫路市での「叫び」が、インターネット上で広がっている。四月にがんで余命一年と宣告された元自衛官。集団的自衛権の行使容認が閣議決定される前日の六月三十日、マイクを握った。

(加藤裕治、写真も) 演説要旨(2)面

ネットで共感広がる

初対面の若者たちに交じり、解釈改憲反対のヒラ配りを手伝っていた。聞こえてくる演説を「分かりにくい」ともどかしく感じた。話が途切れた時、たまたま「ちよっとしやべらせて」と、頼み込んだ。

「私は元自衛官で、防空ミサイル部隊に所属していました」「自衛隊の仕事は日本を守ること。見も知らぬ国に行って殺し殺されるのが仕事なわけない」。五分余りで話し終わると、自民党支持者を名乗る中年男性が「あんたの話はよく分かった。説得力あるわ」と寄ってきた。

差別感情が強く残っている現実と直面し、被差別部落の解放運動に関わり始めた。その延長で、平和運動にも携わる。自衛隊を違憲と考える仲間たちに、合憲という自分の意見を納得してもらったため、勉強を続けてきた。自衛隊は「専守防衛」。「自衛官時代に、国民を守り憲法に従うという役割を教わった」。神戸

沈黙 しない夏

フェイスブックに全文を載せると、瞬間に賛同する人たちが転載を繰り返して、ネット上に広がった。離れて暮らす長男から「おやじ、ほめられすぎ」と冷やかされた。泥さんが自衛隊に入ったのは一九六九年。六年働き、故郷姫路市に戻って皮革加工の仕事をした。被差別部落出身の仕事仲間と付き合いを深める中で、両親や親類と縁遠くなった。

憎悪むき出しの社会 NO がん宣告機に

での街頭演説は、これまでの活動の到達点でもある。

二〇〇九年十二月、「在日特権を許さない市民の会」(在特会)が京都朝鮮初級学校に抗議活動をした。ネットで知った泥さんは、ヘイトスピーチと呼ばれる差別的な発言をするデモに憤り、現場で反対の声を上げる「カウンタ―」活動も始めた。

憎悪がむきだしとなる社会と歩調を合わせるように、政府は戦争放棄の憲法を解釈でねじ曲げようとする。がんの宣告を受けたのを機に仕事を辞め、講演会など表舞台にも立つようになった。

「ヘイトスピーチをする人を蹴散らすことはできるかもしれない」。中心人物を孤立させ、社会的に包囲することが自分の役割と感じている。

「その間に多くの人が良識を発揮してほしい。日本国民のピースマインドは、ばかにできませんよ」

×

解釈改憲や原発再稼働。民意と食い違ふ方向で歴史の転換点が次々と訪れようとしている。「民」が主役であるべき社会のありようを、この夏の一人一人の奮闘を通じて考える。

恨みない人たち殺すのか

集団的自衛権に反対する元自衛官泥憲和さん(60)が、六月三十日に行った演説の要旨は次の通り。(①面参照)

飛び入りでマイクを貸してもらいました。集団的自衛権に反対なので、その話をします。私は元自衛官で、防空ミサイル部隊に所属していました。尖閣とか、北朝鮮のミサイルとか不安じゃないですか。そういうものには自衛隊が対処します。自衛官は命をかけて国民をしっかり守ります。安心してください。

集団的自衛権とはそういうものではありません。日本を守る話ではないんです。売られてもいない他人のけんかに、飛び込んでいこうというんです。

なんでそんなことに自衛隊が使われなければならないんですか。縁もゆかりもない国に行つて、恨みもない人たちを殺していい、安倍さんは自

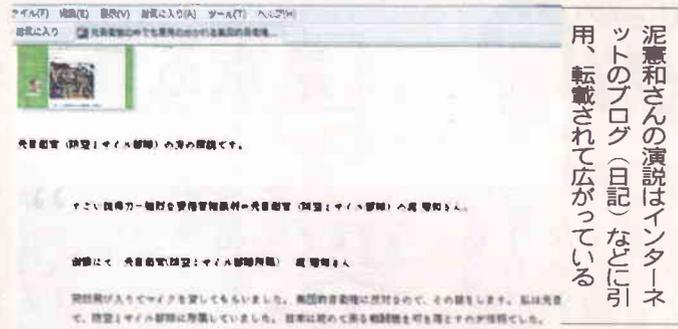
衛官に言つわけです。自衛官も殺されていいというのです。冗談ではありません。

なんでそんなこと言われなアカンのですか。なんでそんな汚れ仕事を自衛隊が引き受けなければならぬんですか。自衛隊の仕事は日本を守ることですよ。見も知らぬ国に行つて殺し殺されるのが仕事なわけじゃないんですか。

みなさん、集団的自衛権は他人のけんかを買ひに行くことです。逆恨みされますよ。当然ですよ。

だから、アメリカと一緒に戦争した国は、かたっぱしからテロに遭つてるじゃないですか。イギリスも、スペインも、ドイツも、フランスも、テロ事件が起きて市民が何人も殺害されてるじゃないですか。みなさん、軍隊はテロを防げないんです。世界最強の米軍がテロを防げないんですよ。

泥憲和さんの演説はインターネットのブログ(日記)などに引用、転載されて広がっている



自衛隊が海外の戦争に参加して、日本が狙われたらどうしますか。自衛隊はテロから市民を守れないんです。その時に、自衛隊が戦争に行つてからだと逆恨みされたんです。だから集団的自衛権には絶対に反対なんです。

が起きて、避難してくる日本人を乗せたアメリカ軍の船を自衛隊が守らなければならぬのに、それができないからおかしいといいました。これ、まったくのデタラメですからね。

日本人を米軍が守つて避難させるなんてことは、絶対にありません。アメリカ国防省のホームページにちゃんと書いてあります。アメリカ市民でさえ、軍隊に余力があるとだけ救助すると書いてますよ。

ベトナム戦争の時、米軍は自分だけさっさと逃げ出しました。どこの国の軍隊も、いざとなったら友軍でさえ見捨てますよ。自分の命の方が大事、当たり前じゃないですか。

その時、逃げられなかった外国の軍隊がありました。どうしたと思えますか。赤十字に守られて脱出したんです。そういうものなんです。戦争は、安倍さんは実際の戦争のことなんかまったく分かってません。私は自衛隊で、「兵は凶器である」と習いました。使い方を間違つたら取り返しがつきません。

主人公は国民 真剣に考えて

ろくすっぽ議論もしないで、してもうそこまか。国会を乗り切ることはできません。でもね、戦場は違うんです。命のやりとりをする場所なんです。そのことを、どうか真剣に、真剣に考えてください。

みなさん、閣議決定で集団的自衛権を認めてもですよ、この国の主人公は内閣と違いますよ。国民ですよ。みなさんですよ。

憲法をねじ曲げる権限が、たかが内閣にあるはずじゃないですか。安倍さんは一回目の時、病気で辞めましたよね。体調不良や病気という個人のアクシデントでつぶれるのが内閣ですよ。そんなところで勝手に決めたら日本の国ががらりと変わる、そんなことできません。

これからが正念場です。だから一緒に考えてください。一緒に反対してください。選挙の時は、集団的自衛権に反対している政党に投票してください。

まだまだ勝負はこれからです。戦後六十九年も続いた平和を崩されてたまるもんですか。